

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	置賜広域行政事務組合			代表者名	理事長米沢市長 近藤 洋介
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	総務課企画財政係	連絡先電話番号	0238-23-3241
担当者役職	技師	担当者氏名	奈須野 直斗	連絡先E-mail	
住所	992-0012 山形県米沢市金池三丁目1-55				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	広域連携事業
概要	本組合を構成する3市5町（米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、白鷹町、飯豊町及び小国町）が自治体DXに取組むにあたって、自治体DXに関する知識や具体的な取組を学び、3市5町共通で取組めるDXのヒントを得られる研修とした。		
支援を求める分野	オープンデータ EBPM 人材（DXに関する知識習得・研修・育成）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	344	令和7年1月21日	支援・助言&講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年1月22日	支援・助言&講演(実地)	14時00分	16時40分	10
				活動時間（分）	150
2-2. 派遣場所	会場名	南陽市沖郷公民館（防災センター）	最寄駅	赤湯駅	
	所在地	山形県南陽市若狭郷屋9 1 7-1	最寄駅からの交通手段	車	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	下山 紗代子
評価	よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	身近なもの（車やトランプなど）で例えながら、DXに取組む目的の明確化、自身がこれまで携わってきた、類似自治体の事例を交えながらオープンデータの意義等についてわかりやすくお話しいただき、有意義な研修会となったため。
アドバイザーへの要望事項	特になし。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	21人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	21			

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	米沢市、長井市及び南陽市ではオープンデータの取組が推進されているものの、他の5町では、まだ、オープンデータが整備されていない。また、各市町個別にGIS及びLINEの活用も始まっているが、置賜地域全体としての取組として進んでいない。まずは、オープンデータに各市町が取組めるよう研修を通して共通認識を持ってもらいたい。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	オープンデータの利活用により、地域内だけでなく、地域外の人材・知恵も置賜地域に関わってもらえるような取組を進める。地域内外に関わらず、多様な人の知恵・技術が置賜地域に集まることにより、地域が主体的に地域課題解決に取組む土壌を醸成し、官民が一体となって地域情報化に取組むことで市民活動、ビジネス、まちづくりに役立ててもらい、地域住民の福祉の向上に寄与するもの。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共創の時代に求められるDXとオープンデータについての講義 DXを進めていく上で、手段が先行していることが多いため、まずは目的を明確にすること。また、税金が減り、住民ニーズが多様化している現代では、オープンデータを公開することにより、民間と協働し、変革していく必要があることなどの講義 ・ 「やめること」から考えるDXについてのワークショップ 業務の棚卸しと、デジタル変革の考え方を取り入れた、業務改善の「01x」を体験できるワークショップ 	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	自治体におけるDX化は、単なる組織の効率化ではなく、デジタル技術やデータ「も」利活用し、サービスの受け手(自治体職員も含めた)目線で地域社会を再構築していくことが重要であることを認識するきっかけとなった。また、オープンデータにより、官民協働が生まれ、得意分野を分担できる社会、持続可能な地域が実現することの共通認識を深める機会となった。アンケートを実施した結果、今後の業務に役立つと回答した参加者が多数おり、「課題が表面化した」、「職場に戻った際には、ECRSを活用し身近なところから業務改善に取り組む」など、DXに対する意識向上と行動促進が図れた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5町については、この研修をきっかけにオープンデータを整備する。整備している3市についてもオープンデータの種類を増やす。 ・ データを活用した、政策立案方法(実習) 	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 アンケートの詳細は別添のとおり	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他 今回の研修会の結果を踏まえ、来年度以降の開催内容について、圏域内自治体と協議する必要がある。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	オープンデータの普及促進に取組むことで、支援を必要とする人の特定、住民に合わせた行政サービスの提供、事務の効率化、民間サービスの向上などが図られることを認識し、整備を行い、積極的に利活用すること。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="checkbox"/> 掲載可
------	------------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

